

15. 「枕草子」『宮』に始めて参りたるころ『第一・第三段落 清少納言

前回 第二段落の、内容確認と現代語訳完成
今回 第三段落の内容確認と現代語訳完成

今日の時点で「枕草子」『宮』に始めて参りたるころ『』の原文、現代語訳、内容理解の解答、文法事項がノートに書かれていますか。もう一度自分で確認してくださいね。

【第三段落の概要】

作者が局で休んでいるところ、中宮から出仕の催促が来る。恥ずかしがってぐずぐずしていると、先輩に部屋を追い出されてしまう。

昼つ方、「今日は、①なほ参れ。雪に曇りてあらはにもあるまじ。」など、たびたび②召せば、こ③局のあるじも、「見苦し。さのみやは籠りたらむとする。④あへなきまで御前許されたるは、さおぼしめすやうこそあらめ。思ふにたがふはにくきものぞ。」と、ただいそがしに出だし立つれば、あれにもあらぬ心地すれど参るぞ、いと苦しき。火焼屋の上に降り積みたるも、めづらしう、をかし。

☆自分の原文、現代語訳を見ながら答えましょう。
内容確認の解答は自分で考え、ノートに書きましょう。答え合わせは後でしましょう。

【内容確認4】

- 1、①「なほ参れ」とあるが、出仕時間はいつごろの予定だったか。
- 2、②「召せ」は作者から中宮への尊敬語である。
中宮が作者に出仕してほしい時間帯はいつごろか。朝・昼・夜で答えよ。
また、選んだ理由になる個所を本文より抜き出せ。

- 3、A、③「この局のあるじ」とあるが、「あ」は男か女か。
B、あるじは作者とどういう関係か。概要から判断せよ。

- 5、④「あへなきまで御前許されたる」ということ
A「あへなき」の意味を答えよ。
B「御前」は何を指すか。

C、誰でも簡単に会えるというわけではない中宮に、「あへなきまで御前許されたる」といふことか。

次ページ

16. 「枕草子『宮に始めて参りたるころ』」第一・第三段落 清少納言

【解答】

- 1 ↓夜 ↓
- 2 ↓昼・昼つ方
- 3 ↓女
- 4 ↓先輩と後輩。または古参の女房と新人
- 5 ↓あっけないほど簡単に
- 6 ↓中宮へのお目通り（対面）
- 7 ↓中宮が作者に会いたいと思ってくれるという意味で、

中宮に気に入られている、寵愛されていること。

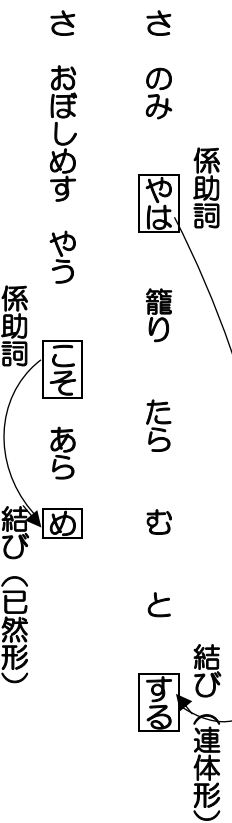
【文法4】

今日は「係結びの法則」を学習しましょう。赤の体系古典文法を持っている人はそれをテキストとして活用してください。太字はすべてノートに写しましょう。

この法則は言葉の意味を強めたいときに用います。

おぼえてほしい係助詞は「ぞ、なむ、や（やは）、か（かは）、こそ」

「結び」**として**変化する動詞、助動詞の活用形は**連体形**と**已然形**



そのよつに**籠**つてばかりいらなかつするー

そのよつに**籠**つただけ **の**か **い**やだめたころうう？

そのよつに**籠**つてばかりいらなかつするー

そのよつに**籠**つただけ **の**か **い**やだめたころうう？

次ページ

現代語訳の確認をしましょう。

暁には早く私室に退出してしまおうとおのずと気がせいってしまうよ。「夜明けの嫌いな葛城の一言主の神様だつてもうしばらく(はいいでしよう)。」などとおっしゃるけれども、どうして斜めにでも顔を御覧になられようか、いや、御覧になられずにすませたいと、やはりうつぶしているのです、み格子もお上げしない。(掃司の)女官たちが参つて、「この格子を、お開けください。」などと言うのを聞いて、女房が開けるのを、(中宮様は)「だめです。」とお制しになるので、(事情を察した女官たちは)笑って帰ってしまう。(中宮様が)あれこれとお尋ねになり、お話をなさるうちに、時間もたつたので、「部屋へ下がりがりたくなつてしまつているでしょう。それなら、早く。夜分は、すぐ(おいで)。」と仰せになる。(御前から)膝行して姿を隠すや否や、(女官たちが)格子を片っ端から上げると、(外は)雪が積もつていたのだった。登花殿のお庭は、立藪が近くにめぐらしてあつて狭い。雪はともきれいだ。

昼ごろ、「今日は、昼間でもいらつしやい。雪で曇つて丸見えでもあるまい(から)。」などと、何度もお召しがあるので、部屋の古参格の女房も、「見ていられない。そんなに引っこんでばかりいようとすよいものですか。あつけないほど容易に(中宮様の御前に)お目通りが許されたのは、(中宮様があなたをお気に召す)わけがあるのでしよう。好意にそむくのは憎らしいものよ。」と言つて、やたら急がせて出仕させるので、無我夢中の気持ちがあるけれど参上するのは、本当につらい。火をたいて夜の警護をする庭先の小屋の上に(雪が)積もっている様子も、常とは違つて、おもしろい。

枕草子は作者の視点から宮中の華やかな内容、中宮定子との楽しいやりとりなどが描かれています。その中で、ん？自慢話かな、という箇所も見られます。自慢話は公表したい、という気持ちは古今東西同じなのですね。

今回は漢文です。